

# 血液内科 臨床研修カリキュラム

研修責任者 牧島 秀樹

## 1. 研修科の特色

血液内科の研修中に会える疾患は、貧血や血小板減少のような「ありふれた疾患 (common disease)」から、いわゆる三大造血器腫瘍である白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫や、再生不良性貧血のような非腫瘍性疾患に至るまで、とても幅広いことが特徴です。さらに、疾患の診断から治療までを、一貫して自科が中心となっていくことが期待されている点も、血液内科ならではの特色でしょう。

血液疾患は、その症状のみならず、治療による副作用が全身に現れるため、臓器横断的な幅広い知識と、他の診療科との密接な連携が求められます。難治性疾患に対して同種移植やCAR-T療法を提案するなど、あくまでも治癒を目指したアグレッシブな診療姿勢を学ぶ一方で、人間の尊厳を最大限に考慮した謙虚な診療態度を身につけることが、初期・後期研修期間のみならず、生涯教育として求められる診療科でもあります。

要求度が高い診療科であるだけに、チームワークが重要であることは言うまでもありません。また研究面にも特徴があります。遺伝子レベルの病態把握が、診断や治療に重要であることは血液内科に限ったことではありません。しかし血液内科で学ぶ分子生物学的な知識と考え方は、臨床医学のどの分野にも応用できるでしょう。皆さんが描く未来像が臨床医であれ研究者であれ、血液内科での研修はキャリア形成の基盤となることでしょう。

## 2. 研修目標

### 一般目標 GIO

内科医として必要な幅広い視野と、総合内科専門医として要求される知識および診療技術を獲得するとともに、サブスペシャリティとしての血液内科に必要な基本的知識と技能を習得する。さらに一社会人としてのマナーと、医師としての倫理観を身につける。

### 行動目標 SBO

1. 主治医として様々な患者と良好な医師-患者関係を構築できる
2. 病歴を聴取し診療録に過不足なく記載できる
3. 身体診察（視診・聴診・打診・触診）により、理学的所見を解釈できる
4. 診断・治療に必要な検査を計画することができる
5. 理学所見・検査結果を基に、診療計画をたてることできる
6. 医療チーム内での意思疎通を良好にし、治療方針決定に自主的に参加できる
7. 診断、診療方針、診療の見通しなどについて患者と医療情報を共有できる
8. 治療経過や今後の方針について診療録に過不足なく記載できる
9. 症例経過をまとめ、プレゼンテーションし、ディスカッションできる
10. 一般内科および血液疾患について理解し説明できる
11. 一般内科および血液内科診療に必要な基本手技を実践できる
12. 患者および医療者にとって安全な医療を遂行できる
13. 医療の倫理的問題を理解し医療チーム内で共有できる
14. 医療のもつ社会的側面の重要性を理解し医療チーム内で共有できる

### 3. 研修方略

(研修期間が4週の場合)

1. (SBO 1~14) 上級医・指導医の指導のもと診療チームの一員として主に入院患者診療を担当する。
2. (SBO 1, 2, 3, 5) 入院患者また初診外来患者の間診、理学所見を記載する。
3. (SBO 4, 6, 7) 担当患者の診療計画をたて、診療チーム内においてカンファレンスを行い方針の確認を行う。
4. (SBO 4, 5, 6, 9, 13) 新患カンファレンスで担当患者の治療方針を発表する。
5. (SBO 7, 8, 10, 11, 12) 採血、骨髄検査、髄液検査、末梢および中心静脈カテーテル留置、造血幹細胞採取、造血幹細胞移植など業務に参加し、診療介助を行う。
6. (SBO 4, 8, 10, 11, 12) 専門手技取得のためのシミュレーション研修を行う。
7. (SBO 7, 10, 13) 各専門部門において開催される研究会や学会に参加する(自主研修)

(Advanced (4週以上)の研修の場合追加される項目)

8. (SBO 7, 10, 13) 研修医の自主的希望がある場合には各専門部門に関する学会において症例報告を行う
9. (SBO 4, 11, 12) 各専門部門の基本手技について実践する
10. (SBQ 9, 12, 13, 14) 担当患者診療における社会的問題や倫理的問題について医療チームと共有できる

### 4. 週間予定

	月	火	水	木	金	その他
午前	各診療科チームカンファに参加後、病棟診療を行う。外来診療支援	血液内科回診/幹細胞採取術	各診療科チームカンファに参加後、病棟診療を行う。外来診療支援	各診療科チームカンファに参加後、病棟診療を行う。外来診療支援	各診療科チームカンファに参加後、病棟診療を行う。外来診療支援	
午後	病棟診療 外来診療支援 骨髄検査など 16:00 診療チーム毎の打ち合わせ	病棟診療 外来診療支援 骨髄検査など 16:00-18:00 血液内科カンファレンス	13:30-14:00 血液病理カンファレンス 16:00 診療チーム毎の打ち合わせ	病棟診療 外来診療支援 骨髄検査など 16:00 診療チーム毎の打ち合わせ	病棟診療 外来診療支援 骨髄検査など 16:00 診療チーム毎の打ち合わせ	
17:15以降				17:30-18:00 研修医クルーズ		

### 5. 評価

#### 研修期間の評価

4週以上の研修が不足なく行われていること。また、研修医は研修において経験した項目について随時PG-EPOCに記録する必要がある。

#### 研修修中の評価

各診療科の診療チーム構成員、病棟看護師、病棟薬剤師、血液検査技師、輸血部検査技師、血液病理医、ドクタークラークなどの多職種の医療従事者が、個々の研修医に対しての評価(態度、知識、技能、問題点の有無)を行い、その情報をもとに、指導医、指導者は随時、形勢的評価となるフィードバックを行う。

(形成的評価)

当該研修科の指導医、指導者は、研修医評価票に記載された評価を用い、フィードバックを行う。

- ・研修医評価票 I に基づく評価  
指導医・指導者（看護師長）が、A-1 から A-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。
- ・研修医評価票 II（1-9）に基づく評価  
指導医・指導者（看護師長）が、1～9 の項目について評価する。
- ・研修医評価表 III に基づく評価  
指導医、指導者（看護師長）が、C-1 から C-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

臨床研修評価表 I～III を基に、責任指導医は臨床研修の目標の達成度判定票を作成し、当該研修期間における目標の達成状況を判定する。

(再履修を要する場合)

- ・再履修の必要性を研修科が認めたもの

(研修科の総括的評価)

当該研修科を修了とするに不十分であると判断された場合、卒後臨床研修センター長と協議し、再履修とする。

※当科の臨床研修指導医は卒後臨床研修センターWeb サイトにて確認してください。

信州大学医学部 血液・腫瘍内科

■住所：〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 ■電話：0263-37-2554 ■FAX：0263-37-3302

■E-mail：makishimah@shinshu-u.ac.jp

■URL： <https://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/departmentlist/ka/ketsueki.php>